

中学校国語科における 論理的・批判的思考力を高める生徒の育成

—— 考えの形成と共有場面の思考過程を可視化した「LACシート」の活用 ——

長期研修員 後閑 大

《研究の概要》

本研究は、中学校国語科の「考えの形成」「共有」の学習過程において、生徒の論理的・批判的思考力を高めることを目指したものである。生徒が筋道を立てて考えを形成したり、他者の助言から自分の考えを広げたり深めたりするために、考えを形成し、記述する場面や共有場面の思考過程を可視化した「LACシート」を提示する。「LACシート」は1枚のシートで論理的・批判的思考力を高めさせることをねらったシートであり、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の学習で幅広く活用できると考える。「LACシート」を活用することが、「論理的・批判的思考力を高めることができる生徒の育成」に有効であることを、実践を通して明らかにした。

キーワード 【国語—中 論理的・批判的思考力 考えの形成 共有】

群馬県総合教育センター

分類記号：G01-03 令和2年度 273集

I 主題設定の理由

平成25年3月、国立教育政策研究所から『社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則』がまとめられ、「21世紀型能力」が提案された。「21世紀型能力」の中核とされる「思考力」は、「問題解決・発見力・創造力」、「論理的・批判的思考力」、「メタ認知・適応的学習力」からなり、論理的・批判的思考力は、「比較・関連付け」、「理由付けや判断力等」から構成される。このような学びを充実させていくため、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編では、考えの形成が、これまでは「読むこと」にのみ位置付けられていたが、全領域の学習過程に位置付けられ、自分の考えを形成する学習過程をより重視するよう述べられている。これらのことから、考えの形成に着目し、自分の考えを論理的に形成することを授業改善の中心に据えることが重要であると考えられる。

さらに、令和2年度群馬県学校教育の指針では、教科経営・学習指導の重点として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。この「深い学び」の実現のためには、学習過程の中で他者と対話を通じて自らの考えを広げたり深めたりして思考を拡散し、多様な情報を多角的に吟味したり、関連付けたりしながら探究し、根拠を基に論理的に思考の収束をしていく過程を充実させることが重要である。また、思考の拡散から収束までの過程を可視化することで、新たな気付きをもたらす、自己の考えを見いだすことができると考える。この、他者の助言から自分の学習過程や考えを意識的に吟味する内省的な思考過程や、自分が形成した考えを俯瞰的に見ることが、批判的思考力を育成することになると考える。

一方で「全国学力・学習状況調査」の結果からは、「主として『活用』に関する問題」の設問において「必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを形成する」ことに課題があると指摘されており、自分の考えを形成するための言語能力の育成は大きな課題となっている。

そこで本研究では、筋道を立てて考えを形成したり、他者の助言から自分の考えを広げたり深めたりするために、中学校国語科の「考えの形成」「共有」の学習過程の中で、生徒の思考過程を1枚のシートで可視化できる「LAC（ラク）シート」の有効性を検証する。LACシートのアルファベット「L・A・C」とはLogical And Criticalの頭文字から取ったもので、「楽」に筋道の立った考えが形成できるという願いも込めてこのネーミングにした。LACシートで身に付けられる力は、学習課題に基づいて「考え」「根拠」「具体的な事実」の3層の思考過程を言語化して自分の考えを形成・記述する力や他者の視点や考えを取り入れ、「吟味」「修正」を可視化して改善点を見いだす力であると考えられる。これらの力は「21世紀型能力」として提案された「論理的・批判的思考力」における「情報、証拠、見解を効果的に分析し、評価して判断する」ことを具体化したものと言える。また、「LACシート」は学習過程に「考えの形成」「共有」を位置付けた、スピーチ・グループディスカッションなどの「話すこと・聞くこと」、意見文・批評文などの「書くこと」、筆者の考えを読み取る・まとめるなどの「読むこと」の学習で、幅広く活用できると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

中学校国語科の指導において、生徒の論理的・批判的思考力を高めるために、考えを形成し、記述する場面や共有場面の思考過程を1枚のシートに可視化した「LACシート」を活用させ、筋道を立てて考えを形成したり、他者の助言から自分の考えを広げたり深めたりすることの有効性を明らかにする。

III 研究仮説（見通し）

「LACシート」を活用させることにより、以下の力を高めることができるであろう。

1 論理的思考力

学習課題に基づいて自分の考えを形成、記述する場面において、「考え」「根拠」「具体的な事実」

を構造化した「LACシート」を活用させることにより、生徒は自分の考えを筋道を立てて考えることができるであろう。

2 批判的思考力

根拠の明確さや表現の工夫、論理の展開について他者との共有を行う場面で、反論や助言を可視化した「LACシート」を活用させることにより、互いの考えを交流することで、自分の思考過程を意識的に吟味し、自他の考えを広げたり深めたりすることができるであろう。

3 複数の領域で幅広く活用させた論理的・批判的思考力

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習における考えの形成、共有の学習程において「LACシート」を幅広く活用させれば、論理的・批判的思考力を高めることができるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 文言の定義

「論理的・批判的思考力」とは

まず、「論理的思考力」とは課題について自分の考えをもち、筋道を立てて分かりやすくまとめることができる力であると考え。筋道を立てて考えをまとめるためには、明確な根拠が必要とされる。次に、「批判的思考力」については、中央教育審議会の資料によると「多面的、客観的に捉えた証拠に基づく論理的で偏りのない思考や、相手を非難するよりも自分の思考を意識的に吟味する内省的思考」であると示されている。つまり「批判的思考力」とは、比較、分析、評価など、自他の考えを協働的な学びを通して吟味することで、物事を多様な観点から考察し、捉え、偏りのない思考に広げ、深めることができる力であると考え。この「論理的思考力」と「批判的思考力」は異なる思考力であるが、明確な根拠に基づいて筋道を立てた考えを鵜呑みにせず、「本当か?」「それだけか?」「その答えは現実的か?」などと、自分自身が納得できるまで考え尽くすことで考えが広げ深められるので、この二つの思考力は相互に補完し合う関係と言える。

(2) 手立ての説明

自分の考えを論理的に形成するために、思考過程を可視化し、学習課題から自分が考えたことを順序立てたり、俯瞰したりすることができる「LACシート」を用いる。「LACシート」には、①頭の中にある漠然とした曖昧な思考の言語化、②思考過程の可視化、③思考の交流、④思考の吟味、⑤思考する方向の限定や手順の方向付け、という効果があると考え。また、思考過程を可視化した「LACシート」を基に共有する場面では、互いの考えを交流しながら質問したり、感想や意見を述べ合ったりする「助言」の機能を有効に働かせる効果があると考え。さらに、根拠の明確さや表現の工夫、論理の展開について他者の「助言」を生かす場面で「LACシート」を活用することにより、他者の視点や考えを取り入れ、生徒は自分の思考過程を意識的に吟味し、自他の思考を広げ、深められる効果があると考え。

◎ 「LACシート」とは

論理的・批判的思考力を高めるためには、自分の考えを支える根拠や具体的事実が整理できるように、思考を可視化する必要がある。この思考の可視化は、生徒が自分の考えを俯瞰でき、根拠とそれを裏付ける具体的事実、複数の根拠等、自分の考えを形成する情報を整理することができるのではないかと考えた。そこで、生徒の思考過程を学習の目的ごとに可視化させるため、「LACシート」というシンキングツールを作成する。「LACシート」は事象の分析、問題の原因特定や、目標設定、課題解決に至るまで様々なシーンで使用することができるフレームワークの「ロジックツリー」に由来している。「LACシート」は3時間分の学習活動を1枚にし、右側から左側にかけて記述していく形式である。学習課題を中央にし、右側の論理的思考力サ

イドでは自分の考えを可視化し、根拠を明確にする効果がある。次に左側の批判的思考力サイドでは、自分の考えをディスカッション形式でグループ検討する際に使用し、自分の考えを相手と伝え合うことで、考えを広げたり深めたりする効果がある。「LACシート」は1枚のシートで論理的・批判的思考力を高めさせることをねらったシートであり、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習における考えの形成、共有の学習過程において、幅広く活用できると考える（図1）。

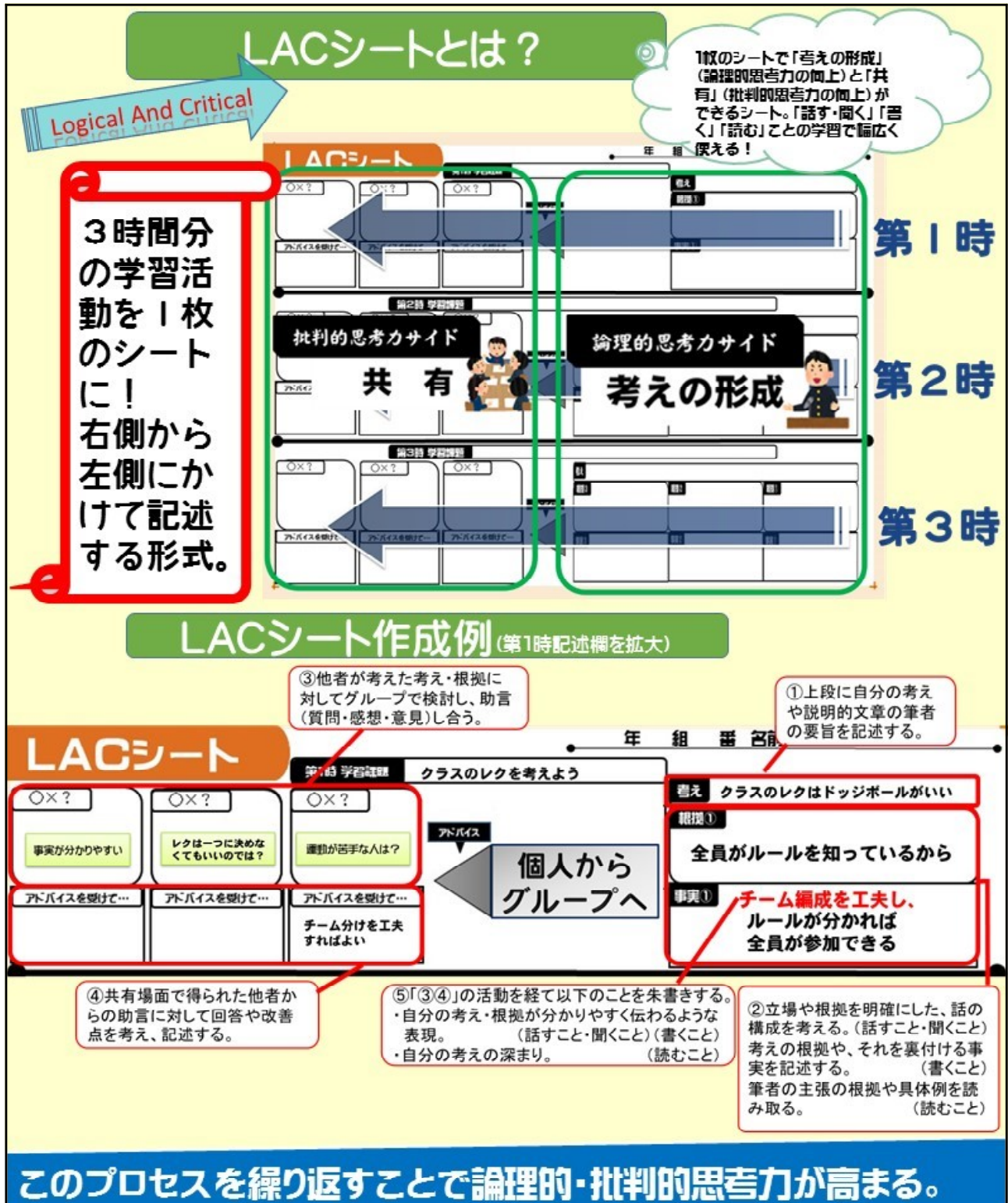
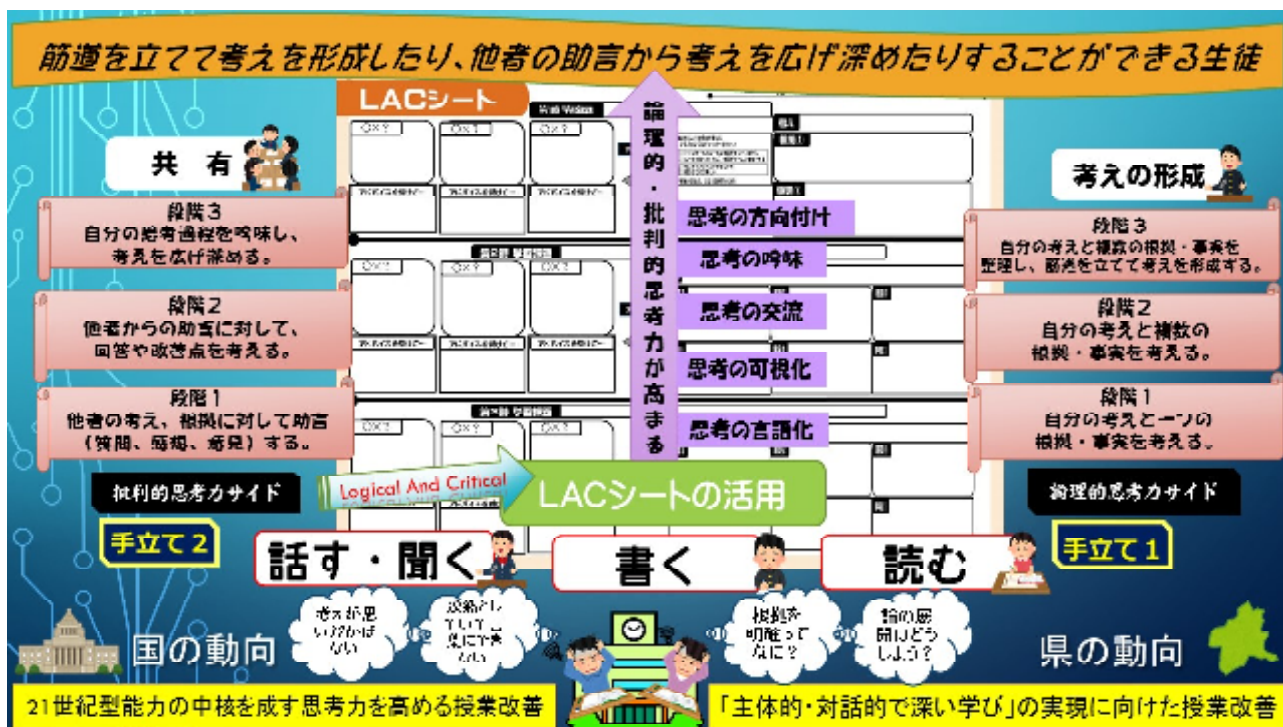


図1 LACシートの作成手順

2 研究構想図



V 実践の計画と方法

1 授業実践の概要

(1) 授業実践Ⅰ

対象	研究協力校 第1学年 69名（2学級）
実践期間	令和2年7月20日～7月27日 3時間
単元名	「根拠を明確にして話し合おう グループディスカッションをする」
単元の目標	「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。 「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。

授業実践Ⅰで明らかになった課題から授業実践Ⅱ、Ⅲでは指導計画を全4時間で構想し、一単位時間の学習活動にゆとりをもたせた。また、第1時から第3時までを1枚のシートで活用できるようにLACシートを改良した。

(2) 授業実践Ⅱ

対象	研究協力校 第2学年 70名（2学級）
実践期間	令和2年10月12日～10月16日 4時間
単元名	『君は「最期の晩餐」を知っているか』をどう思うか
単元の目標	「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(3) 授業実践Ⅲ

対象	研究協力校 第3学年 69名（2学級）
実践期間	令和2年10月15日～10月23日 4時間

単元名	「説得力のある文章を書こう—批評文を書く」
単元の目標	「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。 「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	「LACシート」に考えを記述し、思考過程を可視化することで、説得力のある根拠や、裏付けとなる事実、反論に対する再反論を明確にして、論理的に考えることができる。	・観察 ・LACシート ・批評文等作品 ・振り返りシート
見通し2	共有場面での批判的な視点（質問、意見、感想、評価）から互いの考えを交流することで、自分の思考過程を意識的に吟味し、自他の思考を広げ、深めることができる。	・観察 ・LACシート ・共有前後の記述の比較 ・振り返りシート
見通し3	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習における考えの形成、共有の学習過程において「LACシート」を活用することで、論理的・批判的思考力を高めることができる。	・観察 ・LACシート ・批評文等作品 ・振り返りシート

3 評価規準

(1) 授業実践Ⅰ

評価規準	知識・技能	意見と根拠など情報と情報の関係について理解している。 (2) ア
	思考・判断・表現	① 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。 A (1) イ ② 「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。 A (1) オ
	主体的に学習に取り組む態度	進んで相手に伝わるように、話の構成を考え、学習の見通しをもって話し合おうとしている。

(2) 授業実践Ⅱ

評価規準	知識・技能	意見と根拠など情報と情報の関係について理解している。 (2) ア
	思考・判断・表現	「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 C (1) オ
	主体的に学習に取り組む態度	評論の文章を読んで内容や表現の仕方について考え、進んで自分のものの見方や考え方を広げようとしている。

(3) 授業実践Ⅲ

評価規準	知識・技能	自分の立場や考えを明確にし、説得力のある文章にするために、ふさわしい語句を選び、適切に使っている。 (1) ウ
	思考・判断・表現	① 「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。 B (1) イ

準		② 「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。B（1）才
	主体的に学習に取り組む態度	社会生活の中的话题に関心をもち、学習の見通しをもって自分の立場や伝えたい事柄を明確にして、説得力のある文章を書こうとしている。

4 指導計画

	第1学年	第2学年	第3学年
	授業実践Ⅰ	授業実践Ⅱ	授業実践Ⅲ
単元名	根拠を明確にして話し合おう グループディスカッションをする	『君は「最後の晩餐」を知っているか』をどう思うか	説得力のある文章を書こうー批評文を書く
過程	単元の課題 ●各時の学習	課題 ◇評価【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】	
つかむ	根拠を明確にして話し合おう	筆者の工夫について自分の考えをもとう	説得力のある批評文を書こう
	①説得力のある根拠を考えよう 【思考・判断・表現】① ◇他者の意見のよい点を指摘したり助言したりしながらディスカッションし、自分の意見や根拠を見直したり深めたりしている。 (観察・LACシート) 【主体的に学習に取り組む態度】 ◇説得力のある根拠を明確にして話の構成を考えようとしている。 (観察・LACシート)	①説得力のある根拠を考えよう 【思考・判断・表現】 ◇他者の意見のよい点を指摘したり助言したりしながら考えを共有し、自分の考えや根拠を見直したり深めたりしている。 (観察・LACシート) 【主体的に学習に取り組む態度】 ◇説得力のある根拠を明確にして自分の考えを広げようとしている。 (観察・LACシート)	①説得力のある根拠を考えよう 【思考・判断・表現】① ◇多様な読み手を説得できるように説得力のある根拠を考えている。 (観察・LACシート) 【思考・判断・表現】② ◇論理の展開などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 (観察・LACシート) 【主体的に学習に取り組む態度】 ◇社会生活の話題に関心をもち、学習の見通しをもって自分の立場や伝えたい事柄を明確にして、説得力のある文章を書こうとしている。 (観察・LACシート)
追究する	②説得力のある根拠をたくさん考えよう 【思考・判断・表現】① ◇他者の意見のよい点を指摘したり助言したりしながらディスカッションし、自分の意見や根拠を見直したり深めたりしている。 (観察・LACシート)	②説得力のある根拠をたくさん考えよう 【思考・判断・表現】 ◇他者の意見のよい点を指摘したり助言したりしながら考えを共有し、自分の考えや根拠を見直したり深めたりしている。 (観察・LACシート) ③自分の考えに対する反論を予想し、再反論を考えよう 【思考・判断・表現】 ◇他者の意見のよい点を指摘したり助言したりしながら考えを共有し、自分の考えや根拠を見直したり深めたりしている。 (観察・LACシート)	②説得力のある根拠をたくさん考えよう 【思考・判断・表現】① ◇多様な読み手を説得できるように説得力のある根拠を複数考えている。 (観察・LACシート) 【思考・判断・表現】② ◇論理の展開などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 (観察・LACシート) ⑤反論を予想し、再反論を考えよう 【思考・判断・表現】① ◇多様な読み手を説得できるように論理の展開を考えている。 (観察・LACシート) 【思考・判断・表現】② ◇論理の展開などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 (観察・LACシート)
まとめ	③説得力のある根拠や再反論を考え、グループディスカッションをしよう 【知識・技能】 ◇明確な根拠に基づき、論理的に意見を述べている。 (観察・LACシート) 【思考・判断・表現】② ◇話題や方向を捉えながら話し合い、自他の考えを吟味することで、物事を多様な観点から考察し、自分の考えを広げ深めている。 (観察・LACシート) 【主体的に学習に取り組む態度】 ◇説得力のある根拠を明確にして話の構成を考えようとしている。 (観察・LACシート)	④自分の考えをまとめよう 【知識・技能】 ◇明確な根拠に基づき、論理的に自分の考えをまとめている。 (観察・LACシート) 【思考・判断・表現】 ◇テーマについての自分の考えを文章にまとめることで、自分の考えを広げ深めている。 (観察・LACシート) 【主体的に学習に取り組む態度】 ◇説得力のある根拠を明確にして自分の考えを広げようとしている。 (観察・LACシート)	④説得力のある批評文を書こう 【知識・技能】 ◇自分の立場や考えを明確にし、説得力のある文章にするために、ふさわしい語句を選び、適切に使うことができている。 (観察・LACシート) 【思考・判断・表現】① ◇多様な読み手を説得できるように論理の展開を考えている。 (観察・LACシート) 【思考・判断・表現】② ◇論理の展開などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 (観察・LACシート) 【主体的に学習に取り組む態度】 ◇社会生活の話題に関心をもち、学習の見通し

をもって自分の立場や伝えたい事柄を明確にして、説得力のある文章を書こうとしている。
(観察・LACシート)

VI 研究の結果と考察

「LACシート」を活用して筋道を立てて考えを形成すること、自他の考えを吟味することで、物事を多様な観点から考察し、捉え、偏りのない思考に広げ深めることが、論理的・批判的思考力を高めるために有効であることを検証する。授業実践Ⅰ～Ⅲを通して、「LACシート」や振り返りシートの記述、共有場面の観察から、見通しに沿って考察した。

1 見通し1 「LACシート」を活用し、論理的思考力を高めることができたか

授業実践Ⅰでは、説得力のある考えを形成させるため、1単位時間ごとに第1時には「自分の考え＋一つの根拠と事実」、第2時には「自分の考え＋複数の根拠と事実」、第3時には「自分の考え＋複数の根拠と事実＋反対意見への反論」と継続的、段階的にLACシートに記入させた。生徒は自分の考えや根拠、具体的事実を毎時間記述することで自分の思考過程を可視化しながら、より説得力のある考えを導きだしていった。その結果、第1時から第3時までには、全員の生徒が複数の根拠と具体的事実を記述することができており、第1時からの変容が見られた(図2)。

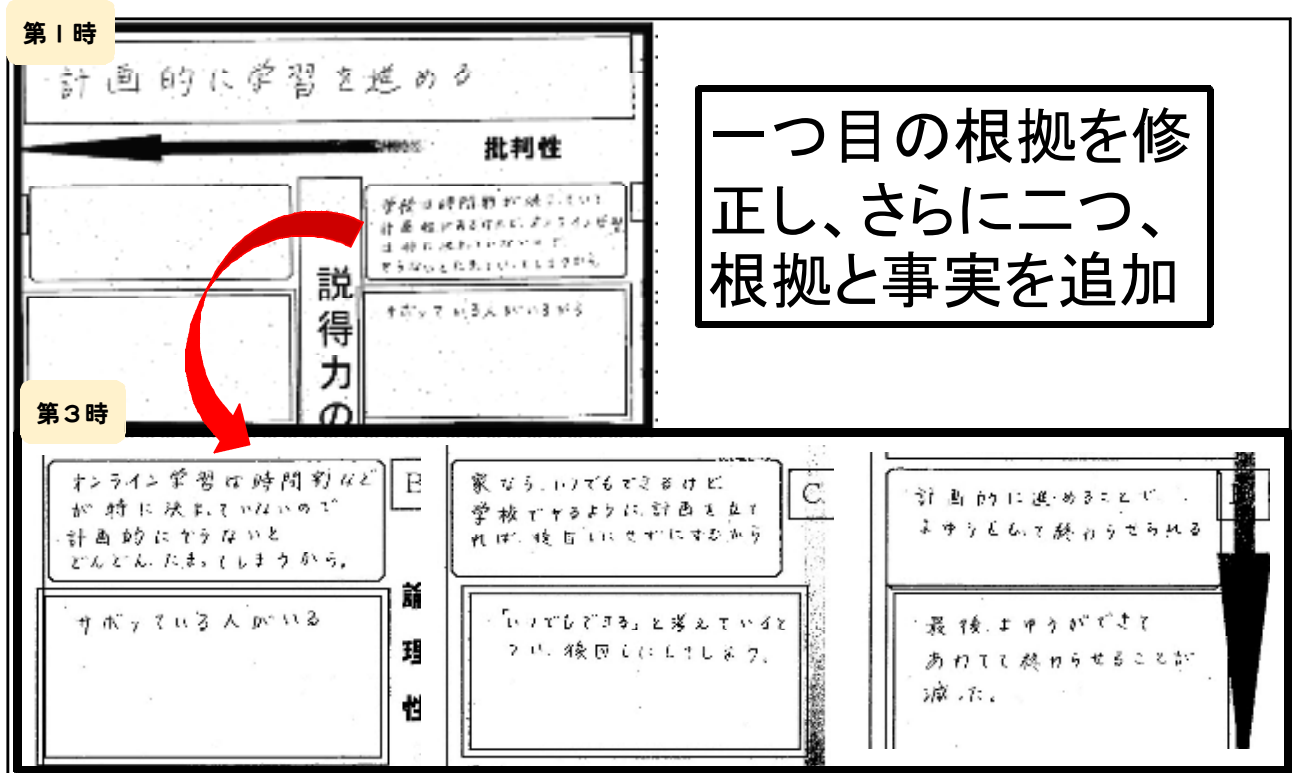


図2 第1時から第3時の論理的思考力の変容(授業実践Ⅰ)

さらに授業実践Ⅱ、Ⅲでは、自分の考え・根拠・具体的事実の修正だけでなく、説得力があると思われる順に根拠・具体的事実をLACシートの右から順に並べ替えさせた。その結果、生徒は自分の根拠・具体的事実を再吟味し、読み取ったことから考えをまとめる文章や批評文を書く際に、説得力のある根拠・具体的事実をスムーズにピックアップして自分の論理を展開しながら記述することができた(次ページ図3、9ページ図4)。

図3 第1時から第3時までの論理的思考力の変容 (授業実践Ⅱ)

変更

考え 共感できる

根拠① 筆者の意見に説得力が生まれ、
「オナルトの技術の高さと科学を取用して表現しようとしたもの、それに至る努力が、よく伝わってきて、この絵の魅力を素直に感じることができた」

事実① ^{「オナルトの」}効果的な図を提示し、科学の取り入れ方を視覚的に伝えている

修正後

考え おもしろい

根拠③ 筆者の独特な考え方があるから。
(例) 本当の最後の晩餐は、二一世紀の科た城が初見た

根拠② 中学生にも興味を持ってもらえるような構成の仕方をしていいるから

根拠① 効果的な図を提示し、「オナルト」の科学の取り入れ方を視覚的に伝えているから。

事実③ 他のものとは違うユニークな1文があるだけで、その世界に引き込まれる。わくわくする

事実② 難しく堅苦しく説明されただけではつまらないし、興味を持ってない。

事実① 文章だけでなく、図や絵があると、おもしろみが増す。理解が深まる。

予想し、再反論を考えよう

考え おもしろい

根拠③ 中学生にも興味を持ってもらえるような構成の仕方をしていいるから。

根拠② 筆者の独特なものの見方・考え方があるから。
(例) 本当の最後の晩餐は、二一世紀の科た城が初見た

根拠① 効果的な図を提示し、「オナルト」の科学の取り入れ方を視覚的に伝えているから。

事実③ 堅苦しく長々と説明されただけではつまらないし、興味を持ってない。

事実② 他のものとは違うユニークで魅力的な1文があるだけでわくわくし、その世界に引き込まれる。

事実① 文章だけでなく図や絵があると理解が深まり、おもしろみが増す。想像しやすい。

MVP

右から説得力がある順に根拠・事実を並べ替えた

図3 第1時から第3時までの論理的思考力の変容 (授業実践Ⅱ)

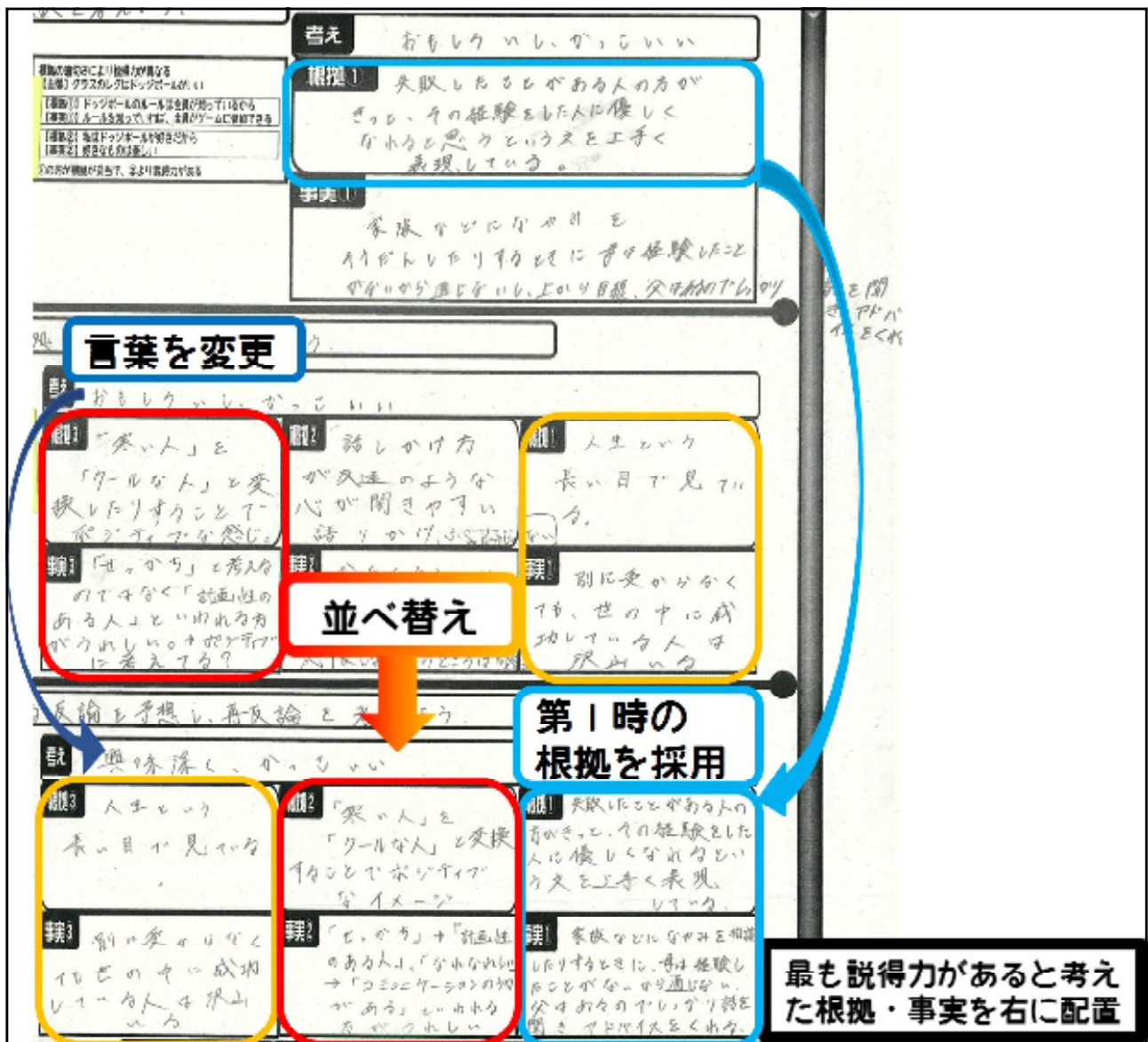


図4 第1時から第3時までの論理的思考力の変容（授業実践Ⅲ）

2 見通し2 「LACシート」を活用し、批判的思考力を高めることができたか

個人で形成された考えを共有させるため、全ての授業実践において第1時から第3時の学習活動の中に、個人で考えた根拠に説得力があるかについて、グループで検討させる活動を設定した。その際に、より説得力のある根拠を導きださせるため、個人で考えた意見や根拠を発表者が発表した後、グループのメンバーから質問、意見、感想、評価などの助言を伝え、発表者がそれに答えるという検討会を行い、助言者が付箋紙に記入したものを、グループのメンバーごとに、相手のLACシートに貼らせた。検討会后、自他の考えを明確にさせるため、グループでの共有活動から、自分の意見や根拠を吟味させ、修正点や改善点をLACシートに朱書きさせた。また、第3時では、他者の意見のよい点を指摘したり助言したりしながら「再反論」「吟味」「推敲」を可視化して説得力のある考えを形成させるため、予想される反論、質問やそれに対する再反論を考えさせてから最終検討会に臨ませた。その結果、第2時では全ての生徒が助言を考えられ、第3時では質問に対する答えや反論に対する再反論を考えることができた。また、予め、説得力のある根拠や具体的事実を考えられており、第2時までの共有場面で質問や反論が出されなかった生徒は第3時では自分で反論を予想し、それに対する再反論を考えることができた。検討会においても回を追うごとにテーマの本質に迫るような内容の検討がなされるグループが増え、有効な手立てだったと言える（次ページ図5、6）。

第1時の検討会において抽出生徒S1は、

- S1： **考え** このポスターは印象に残りやすい。
根拠 ダジャレのおもしろさを文字を大きくして目に入りやすくしているから。
事実 お笑い芸人は伝えたいことを動きを大きくして印象に残るようにしている。



と、ポスターのキャッチコピーの視覚的効果を具体例を交えて伝えていた。ただ、具体例や伝え方が不十分だったため、

- S2： 文字の大きさが、芸人がやってるみたいになる？
 S3： 事実が分かりづらい。
 S4： もうちょっと分かりやすく。

と、事実について助言され「もう少し、たとえを分かりやすくしたほうがいい」という内容の付箋を貼られる。

- S1： たとえるものを別のものにすればよかったのかな？
 S3： そうだね。

S1は検討会后に事実を「教科書の重要なところは太字で書いてあり、覚えやすくするため」と修正した。さらに第2時では事実を「ノートなどで大事なところを太字にしておくと次開いたときに目に入る」と、より分かりやすく記述していた。

図5 検討会でのやり取り（授業実践Ⅲ）

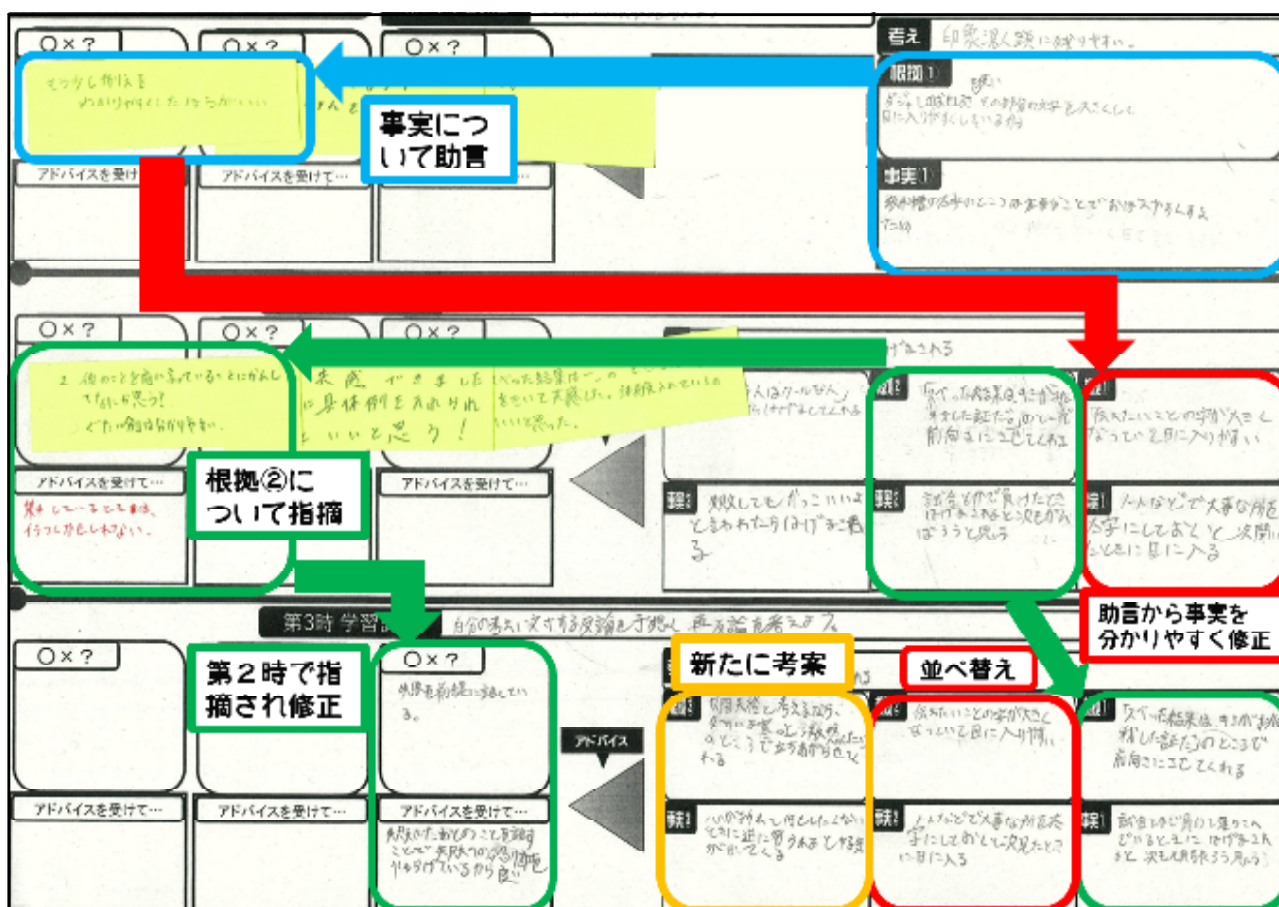


図6 図5の検討会で指摘されたことを修正、改善した、S1の最終的な記述内容

3 見通し3 「LACシート」を幅広く活用し、継続的に論理的・批判的思考力を高められたか

第3時までで完成させたLACシートを基にして、最終的にはグループディスカッション（授業実

践Ⅰ)や読み取ったことから自分の考えをまとめた 400字程度の文章を書かせる活動(授業実践Ⅱ)、600字程度の批評文を書かせる活動(授業実践Ⅲ)を行わせた。LACシートで自分の考えをじっくり吟味したため、授業実践Ⅰでは説得力のある根拠に基づいたグループディスカッションが行われ、授業実践Ⅱ、Ⅲではほとんどの生徒が25分間で説得力のある文章にまとめることができた。また、文章の構成や論の展開の仕方においても、LACシートの記述の順で書くよう指示したことにより、筋道の立った文章を書くことができた。さらに、授業実践Ⅲでは原稿用紙に他者との交流欄を設け、批評文を完成させた後に周囲の生徒と文章の読み合いをさせ、「いいところ」と「こうしたら」と思うことを一言コメントで記入させた(図7)。この活動は論理的・批判的思考力を高め、形にした後にお互いの論理を俯瞰的に見ることができ、自分の考えが、より広げ深められたと言える。

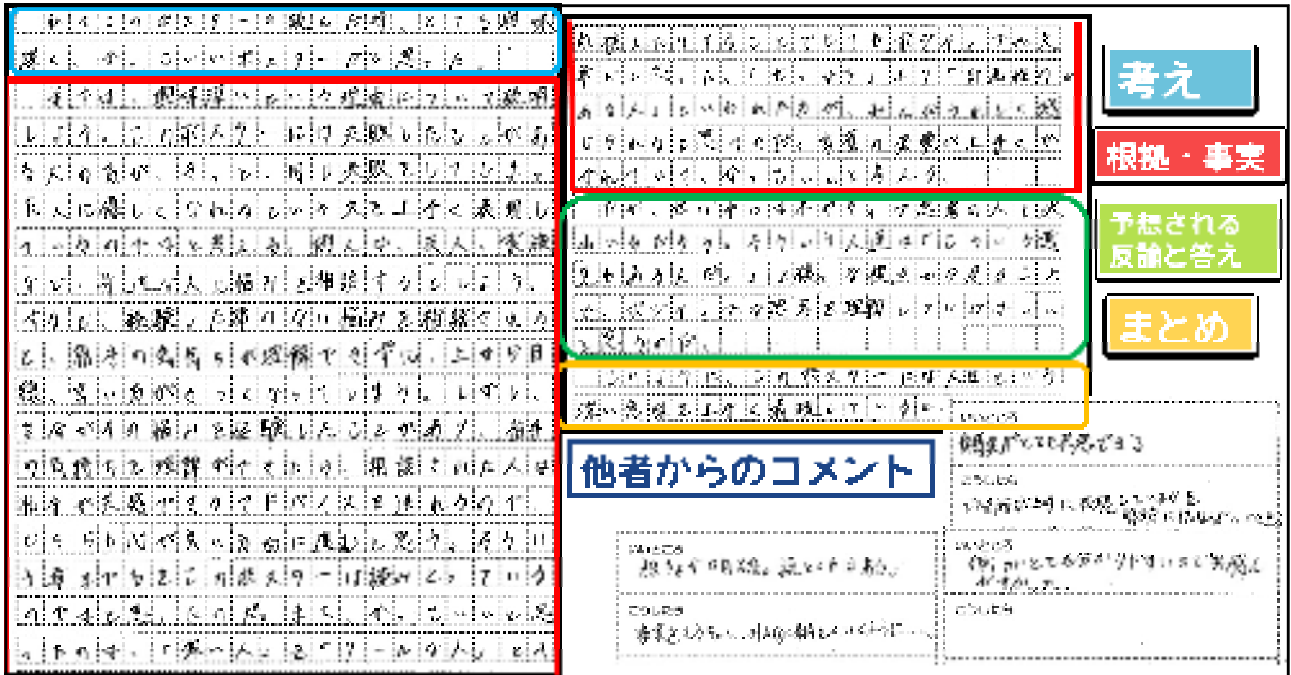


図7 他者からのコメント欄を設けた批評文の原稿

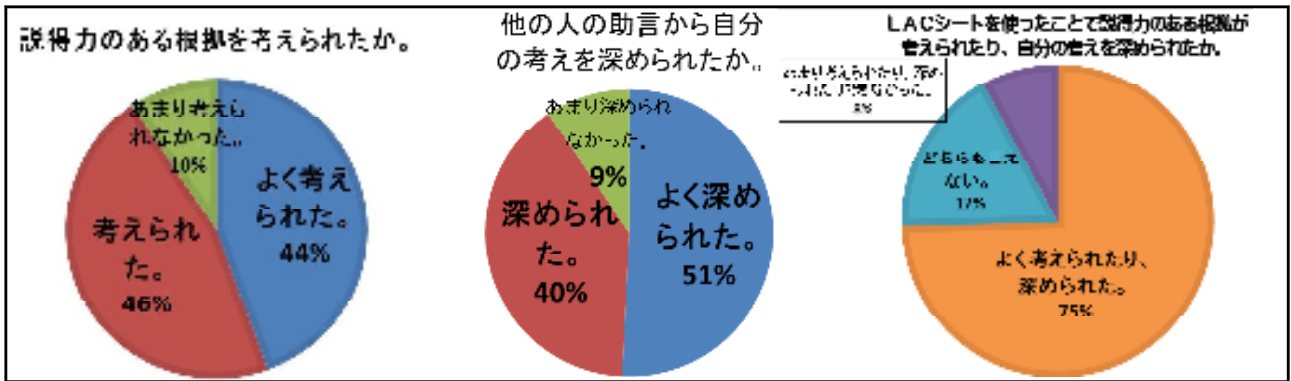


図8 授業実践Ⅰ(話すこと・聞くこと)の生徒の振り返りから

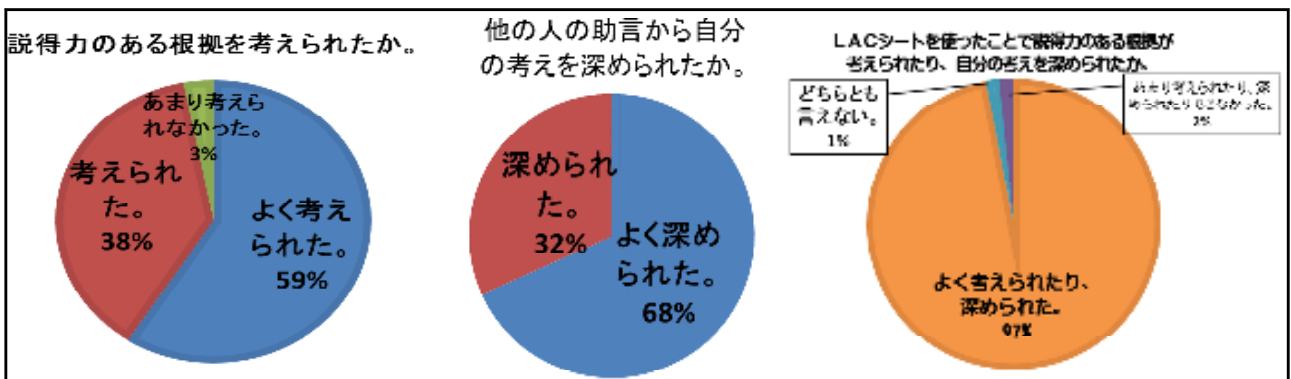


図9 授業実践Ⅱ(読むこと)の生徒の振り返りから

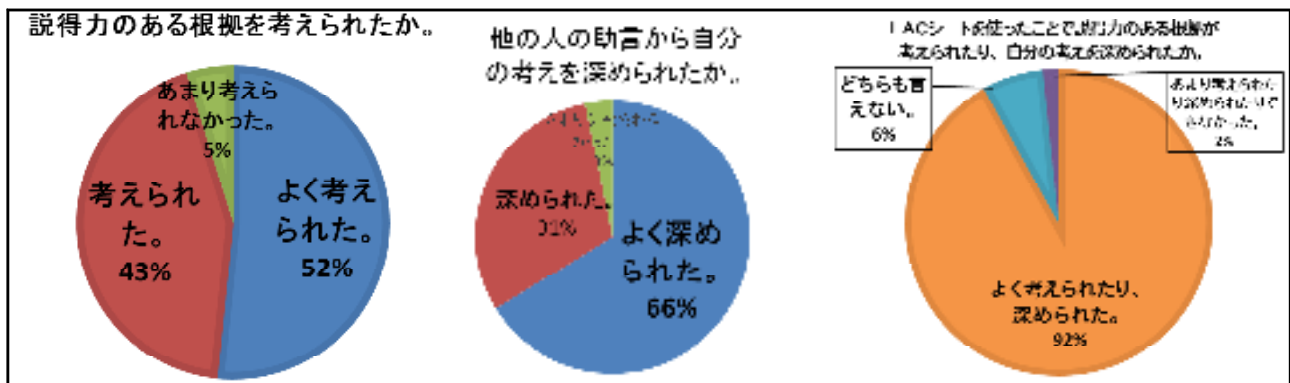


図10 授業実践Ⅲ（書くこと）の生徒の振り返りから

図8～10で示した生徒の振り返りから、自分の考えを形成し明確に表現する上で、LACシートを活用して有効だったこととして、以下のことが考えられる。

- LACシート1枚に第1時～第3時までの学習活動をまとめ、学習課題を中央にし、左右で思考する内容を分けて作成したことで、生徒にとっては1枚のシートで授業の流れや自分の思考過程を把握することができ、使いやすかった。
- LACシートを基にして自分の考えを可視化し、根拠を明確にしたことや、自分の考えを相手と伝え合ったことで、自分の考えを広げたり深めたりする効果があり、論理的・批判的思考力を高めることに有効であった。
- LACシートで付箋を使い、グループのメンバーが質問、意見、感想、評価などの助言を伝え、伝えられた生徒がそれに答えるという検討会をさせたことは、自分の意見や根拠を吟味し、より説得力のある根拠を導き出すために有効であった。

- ・1枚で全てを一気に見られるので自分の考えの流れがよく分かった。
- ・考え→根拠→反論という順に考えたから、より自分の考えを深めることができ、分かりやすかった。
- ・段階に分けられていたので回を追うごとに説得力のある根拠を考えることができた。
- ・LACシートを使ったことで、自分の根拠を見直すことができた。自分の考えと相手の考えでよりよい根拠を作れた。
- ・批評文を書くときに文章の構成を考えやすかった。
- ・前に書いたものに更に付け足しをし、それを踏まえた上で新しい考えを出せた。比較しやすいので自分の考えに、より説得力を増すことができた。
- ・アドバイスをあまり受けられなかったのでシートを全部埋められなかった。

図11 LACシートについての生徒の記述回答

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- LACシートを使い、1単位時間ごとに修正や改善を繰り返しながら、「自分の考え+複数の根拠と事実+反対意見への反論」と継続的、段階的に考えさせたことは、説得力のある考えを形成させる上で有効であった。
- 自他の考えに広がりや深まりをもたせるため、LACシートを使い、他者からの助言を基に自分の考えや根拠を吟味させ、より説得力のある考えを形成させたことは、論理的・批判的思考力を高めることに有効であった。
- LACシートは1枚のシートで自分の思考過程を可視化できるため、利便性が高く、説得力のある考えを形成させることだけでなく、LACシートを活用して他者と考えを共有したり、自分の考えを再度吟味できたりと論理的・批判的思考力を高めることに有効であった。

- L A Cシートは自分の思考変容や、他者からの意見や助言も記述されているため、ディスカッションのメモや意見文・批評文の下書き、文章を読んで理解したことや考えたことをまとめる際の構成メモなど、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習における考えの形成、共有の学習過程において汎用的に活用できることが分かった。

2 課題

- 自分の考えを形成する段階で説得力のある根拠、事実を考えられた生徒にとっては、共有場面において、グループのメンバーが納得してしまい、有効な助言や論理的な反論がもらえず、物足りなさを感じていた。グループごとに支援しながら、助言は感想でもよいことや、朱書きする際に自分で反論を予想することを指示した。シート活用の有効性は見られたので、共有場面での手立ての工夫が必要である。
- L A Cシートの記述欄は全て埋まっているにもかかわらず、それを基に文章を書かせる段階で、時間内に書き終えることのできない生徒が何人か見られた。モデル文の提示や話型を示して支援をしたが、L A Cシートだけで記述できるよう、シートの活用の仕方に慣れさせていく必要がある。
- シートに同じ内容を何度も転記せざる得ないなど、記述しにくい面も見られた。I C T化を視野に入れ、作業時間を削減できるようにシートを更に書きやすく改良し、考える時間を確保して、自分の考えをより深めさせる必要がある。

Ⅷ 提言

本研究の授業実践では、どの実践においても単元の振り返りで、ほとんどの生徒が『L A Cシート』を使ったことで、説得力のある根拠が考えられたので、今後も使ってみたい」と記述していた。これは、授業者が意図したねらいや目標に向かうことができたことを表している。生徒が本単元で学んだことを次回の単元につなげ、論理的・批判的思考力を汎用的な力へと成長させていくためには、学習を系統立てて積み上げていくことが必要である。また、考えを形成する上で必要な、筋道を立てて説得力のある根拠や事実を考えるスキルを、その都度生徒に明示し、学習をつなげていくことが有効であると考えられる。本研究においても明らかになったように、「L A Cシート」を継続的に使用していくと、更に効果的に活用できるのではないかと考える。

<参考文献>

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』 東洋館出版社(2018)
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 東洋館出版社(2018)
- ・吉樂 均 著 『論理的・批判的思考力を育成する汎用的スキルの工夫—「論理のピラミッド」を活用した意見文作成の授業実践から—』 上越教育大学「教育実践研究」第25集(2015)
- ・樽井 奈緒子 著 『「自分の考えを適切に書く力」を育成する国語科学習指導の在り方—「共有」場면을重視した単元づくりを通して—』 福島県教育センター長期研究員研究紀要(2019)
- ・下川 一平 著 『創造的・論理的思考力を育てる学習・指導の改善・充実』 明治図書「国語教育」No. 804(2016)

<担当指導主事>

坂本 直之 田所 由美子